令和７年度　第２回かめおか霧の芸術祭実行委員会

日時　　令和７年９月２６日
午後１時～午後３時
場所　３０２・３０３会議室

（顧問）
【開会の挨拶】

（委員長）
まず、議題１「令和７年度事業の進捗報告」につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

（事務局）
【事務局から取組状況報告】

（委員長）
多くの事業内容をご案内いただきましたが、これからの議論を踏まえて進めていきたいと思います。それでは、ご質問・ご意見を承ります。

（委員）
一点だけ申し上げたいことがあります。紹介すべき部分と、より掘り下げるべき領域があると思います。私自身、田舎出身で家畜飼育をしておりました。子牛を出荷した日の親牛の反応、鶏を処理する場面など、幼少期から「命」と「食」に触れてきた経験があります。生命・食というテーマは非常に繊細で、野菜・果実の紹介は可能ですが、肉や動物性食材を扱うことは難しい部分もあります。それでも、地域文化・食文化を包括的に扱う観点から、可能性があればそうした表現も取り入れてほしいという趣旨の意見として申し上げます。

（委員長）
ありがとうございます。他にご意見がございませんでしょうか。では、議題２に移ります。議題２は「全国都市緑化フェア in 京都丹波に係る事業」についてです。事務局から概要説明をお願いします。

【事務局・スタッフのアーティストから事業計画を説明】

（委員長）
ただいま説明いただいた内容について、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。

（委員）
会場がとても広く感じられますが、それゆえに足腰に不安のある方、高齢者、子どもたちなどはなかなか回りきれないかもしれません。休憩できる場所や案内ルートを配置する配慮が必要だと感じました。また、急な用件が入った場合の対応や、案内スタッフを増やすなどの支援体制を考えていただけないでしょうか。いくら企画が充実していても、来場者が迷わず安心して回れる環境を整えることが重要だと思います。特に高齢化社会を迎えている現在、安全性と配慮は非常に重要です。たとえば、背の高い建物や障害のある構造物があれば危険ですので、慎重に検討してほしいと思います。会場配置等についても改めて検討していただければと思います。来場者が快適に移動できる動線、休憩スペースや案内設備なども重視していただきたいです。繰り返しになりますが、企画内容だけでなく、「来場者視点」での運営体制を強化していくという視点を、ぜひ取り入れていただきたいという意見です。

（委員）
管理運営は主に亀岡市が主体となると思いますが、実際の運営や内容検討において、まだまだ検討事項が多いように思います。現在の規模を考慮すると、従来の実行委員会方式をそのまま維持するだけでは不十分ではないかと懸念します。設計図がズレたり合わない可能性もあります。作成したものが利用されなかったり、リスクを伴うことも想定されます。実行委員会のメンバーは、企画や予算の承認を行う責任を持つ立場ですが、実務は運営側（当日対応を担うスタッフ）に委ねられることになります。その責任範囲や権限を明確にしておかないと、曖昧さがリスクを招くのではないかと感じます。熱中症対策、天候変動対策なども含めて、ただ勢いだけで進めてよいのかという懸念があります。もし契約内容がしっかりしていなければ問題になる可能性もあります。

また、プロジェクトによっては小屋を設置するという話も出ていますが、それが永久設置されるものなのか、公園施設の一部として扱われるのかを明確にすべきです。自然素材を使ったものは劣化しやすく、風雨・保管・維持管理などの問題もあります。イベント終了後の扱いや撤去、ゴミ管理も考慮が必要です。こういった点を考えずに進めてしまうと、「環境に良い」と言いながら逆に負荷を残す結果になるかもしれません。テーマ、素材、設置方法、撤去方法などを精査して、言っていることと実際にやることが乖離しないようにすべきだと思います。

このような観点を前提に、プロジェクトの上位設計から細部まで意識して進めていただきたいと感じます。

（事務局）
少し事務的な補足をさせていただきます。ご指摘いただいたように、規模の大きな事業であることは認識しております。そのなかでバリアフリー対応は重視しており、障がいのある方や車椅子の方も園内を巡れるよう配慮したいと考えています。中心部のメイン通路は幅4メートルを想定しており、2トン～4トンのトラックも通行可能とし、マルシェや業者搬入のアクセスを確保したいと思います。また、緊急時には消防車・救急車が進入できるルートも設けたいと考えております。動線についてですが、入口・出口を会場内の花畑近くに設定し、歩行者の安全を確保したうえで通行を誘導したいと思います。ただし、搬入車や関係者車両はバックヤード通路を使えるよう配慮したいと考えております。

また、プロジェクトの多様性を意識しながら、スタッフとともに安全性・利便性を兼ねた設計を検討してまいります。

（委員）
アートという言葉に興味を感じています。ただ、私は特に専門家ではない“ただの田舎の者”ですが、先ほどの説明を聞いていて思ったことがあります。例えば、農業関連の要素や地元の風土の表現を交えた芸術作品があれば、参加しやすさを感じる方も多いのではないでしょうか。気候風土や地域色を反映したデザインであれば、市民も共感しやすいと思います。「市民全体が参加できる」という視点でいえば、私のような者でも参加できるような仕組みがあるとよいと思います。口だけでなく、手を動かせる機会があるような構成が望ましいです。

（委員）
全国都市緑化フェアin京都丹波という大きなイベントの全体像を今回初めて見せていただき、来場者の数が相当なものになると予想しております。この地域には来年もサッカーに係る観客や関係者も多く集うので、人の流れがどうなるか興味深く見ています。午前中の早い時間帯から来場される方もいるでしょうから、動線設計も重要になると思います。規模が大きいため、アート部門の内容は多くの市民が参加できるものにしてほしいです。知名度よりも「市民参加型」を意識した展開が望ましいと感じます。

（委員）
このような非常にありがたい企画をいただきまして、「自然」と「芸術」が融合し調和する

姿を、多くの市民の皆さんに見ていただける、とても良い機会をいただいていると感じています。今回のプロジェクトは、「芸術と農業の融合」という非常に面白い試みであり、私たちの農業や自然の中で、新たな現地制作作品が生まれるというのは、とても興味深いチャレンジだと思います。ただ、大規模なプロジェクトであり、広い敷地を活用しますので、吉田委員や栗本委員がおっしゃったように、安全面やセキュリティなど、さまざまな課題があります。今後は、事務局の皆さん、そして現地の事務局の皆さんが協力して、これらの課題を一つひとつ解決していくことが重要だと考えます。このプロジェクトは、法人の関わりも含めて、「農業のあり方」や「地域経営の在り方」を見直す非常に良い機会だと思いますので、今後の調整をしっかり進めていただきたいと願っています。

（委員）
　今回の事業予算「6,900万円」というのは、非常に大きな金額であると感じています。このアートプロジェクトは、先ほど先生からもありましたが、現状のメンバーでは対応が難しいということもおっしゃっていました。ただ、実際には調整役（コーディネーター）となる方が何人もいらっしゃるということで、法人の関係や、そういったフレームの中で進めていく形になるのではないかと考えています。観光協会には、約300社が加盟していますし、亀岡の商工業を見れば、約2,000社の事業者があります。そういった地域の繋がりの中で、特に若い世代は京都市内に勤務されている方も多いので、最初の相談窓口として観光協会が担う役割もあるのではないかと考えます。できる限り、地域の事業者に発注していただいて、それでも対応が難しい場合には、次に京都市内、さらに近隣地域の業者へと、なるべく地元に近いところから活用していただければと思います。やはり、6,900万円というのは非常に大きな金額です。言い方は悪いかもしれませんが、できることは地域でやって、なるべく地域外にお金が流出しない形を取っていただけたら嬉しく思います。

（委員）
　皆さんのご意見を聞かせていただき、非常に重要なことだと感じました。法的な問題がクリアできていない部分もあるかとは思いますが、できる範囲の中で、どこまで実現していくかがポイントになると思います。最終的にはやはり、スペースの使い方や動線なども考慮することが重要な気がします。また安全管理や天候の問題なども出てきます。そのあたりをどのようにクリアしていくのかが、今後の課題だと思います。それらの点も含めて、実行委員会としっかりすり合わせながら、「来場者が楽しく、安心して、作品を見て帰れるかどうか」という視点で進めていっていただければと思います。

（委員長）
　ありがとうございます。皆さまから多くのご意見をいただきました。まだ検討すべき点も多く残っておりますが、いただいたご意見を参考にしながら、事業を進めてまいりたいと考えております。それでは議題（２）「全国都市緑化フェア in 京都丹波に係る事業」について、承認いただける方は拍手をお願いします。

　【拍手】

　ありがとうございます。拍手多数でありますので、原案のとおり承認されました。それでは、本日予定しておりました議題は以上となります。時間も限られておりますので、これにて終了とさせていただきます。

（司会）
　委員長、本日はお世話になりました。皆さまにおかれましても、長時間にわたり慎重にご審議いただき、また貴重なご意見をたくさんいただきまして、本当にありがとうございました。
　今後も、かめおか霧の芸術祭の取り組みを通じて、さまざまなアートを市民の皆さまに届け、地元・亀岡の魅力や地域資源の素晴らしさに気づいていただき、日々の暮らしがより豊かで楽しいものになるような事業を進めてまいります。

　また、全国都市緑化フェア in 京都丹波の取り組みについても、まだ始まったばかりではありますが、皆さまから引き続きご意見をいただきながら、進めてまいりたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、令和７年度第２回かめおか霧の芸術祭実行委員会総会をこれにて終了とさせていただきます。
　本日は誠にありがとうございました。